

2015年度 【競技役員の行うべき任務】

2015.7.17

- ① 試合開始40分前にはオフィシャルテーブル（以下：テーブルと記載）後ろに集合（TO・J）し、試合開始の決められた正確な時刻に開始すること。
- ② 公式試合記録、ストップウォッチ、リング、ボール、ビブス、GK用予備ユニフォーム等のテーブルで必要な用具をしっかりと点検すること。
- ③ 試合前における試合会場での練習の有無を確認し、決められた通りに練習が行われるように管理する。（不利益を被るチームが出ないようにすること。）
- ④ すべてのプレイヤーのスティック、GKの防具、手袋とフェイスマスク、危険と思われるもの（貴金属）の点検と不合格品の保管をすること。
- ⑤ 時間の管理、アンパイアの時間停止のシグナルを見落とさず、試合時間の管理を確実に行う。（審判員としっかりアイコンタクトをとること）
- ⑥ 公式試合記録用紙への得点の記入（得点チーム、得点時間、得点者番号、得点種別、得点推移）。
- ⑦ 交代プレイヤーの交代出場時間について記録（最初の出場のみ）。警告カードに関する記録。
- ⑧ チームベンチの人数（入場できる人の確認）と、ベンチ内の言動についてしっかりと監督すること。
- ⑨ 出血プレイヤーは直ちに退場（審判員としっかりアイコンタクトをとること）させ、止血措置と負傷箇所の治療完了後再出場（TOが確認後許可）、又血痕付着衣類の着用を禁止することを忘れずに。また、フィールド面が出血汚染されているかどうかの確認を必ずすること。その場合、アンパイアとの連絡を取ることが重要になるので、試合の進行の妨げになる時間を極力短くし、スムーズに洗浄を実施すること。試合のスタート後、気がついた場合は試合を中断しなければならない。
- ⑩ 試合終了時に公式試合記録を書き上げ、監督・アンパイア・リザーブアンパイア・(サゼクションアンパイアがいる場合はサゼクションアンパイア)・アシスタントジャッジ・ジャッジにそれぞれ署名させ、最終確認後TOが署名、大会運営本部の指示に従い記録関係責任者へ渡す。
- ⑪ アンパイアリングに関する論評(とくに判定に関する事)は、ジャッジ席及び審判控えテーブルでは厳禁。各自注意して下さい。

大会での連絡事項

- ① 各大会における競技会運営規程、及び補足と通達事項を確認すること。
- ② グリーンカードの2分間の計測は、ジャッジ2人で協力し合って行うこと。
- ③ 審判員との事前ミーティング、前後半の開始、ゲーム中でのカード、中断でのアイコンタクトを忘れないこと。
- ④ ユニフォームが紛らわしい時は審判員と共同で確認すること。

(シャツの裾をスカート、パンツの中に収納させることを忘れず…最近、パンツの外へ出すための丈の短いシャツが販売されているが、そのシャツは認めている。また、サッカーも以前ほどパンツから出すシャツの問題は言われなくなったが、ホッケーはホッケーとしてシャツの問題は以前と変わらずなにも変更していない。ただし以前はゲーム中も指示をしたがそこまで神経質になる必要もない。)

⑤ ベンチでのブーイングに対しては担当審判員の負担にならないよう、注意又はカードで指導、管理すること。この場合もいきなり高圧的(上から目線)にならず、順序立てて指導をすること。ただし、場合によっては一発レッドもありうる。⇒**勇気を持つて的確な決断**

⑥ 時間の管理、前・後半の終了時のホーンはTOが全責任を持つこと。

また、試合中はどちらかの役員は必ずフィールド内のゲームから目を離さないこと（前半、後半終了時、競技役員はフィールドに入れる）。

⑦ 一時退場者の管理はジャッジ席で、退場処分時間の延長が必要となった場合は、リザーブアンパイアに退場時間の引伸ばしを指示し合図を送らせる。このことについては打ち合わせ時に指示をすること。2012年度よりイエローカードの退場時間が5分と10分に限定されジャッジ席から再入場させるということになっている。退場時間延長の場合は必ず審判員に伝えること。このパフォーマンスは大変難しく、ベンチからクレームが来ることも考え慎重に行うこと。

⑧ 負傷で試合中断し救護の2名や担架がフィールド内にはいった場合は、その選手は2分間ベンチに止まらなければならない。その2分間の計時は競技役員が行う。（GKは除く）

⑨ ハーフタイムの時、審判員と得点・カードの確認をすること。

⑩ ハーフタイムの時、**審判員に対する技術的な指導は、UM以外は行ってはいけない。**

⑪ ジャッジ席後の総務委員席が騒がしい場合は注意を促すこと。

⑫ 次試合控えベンチのチーム管理は、次試合競技役員が責任を持ち管理すること。

⑬ ジャッジ席での携帯電話は厳禁。（マナーモードではなく電源をオフに）

⑭ 選手交代はサイドラインからジャッジ席より3m以内のところから交代する。（PC時の交代は競技規則2015・16年版 P.19を参照すること）

⑮ ミーティング時の試合結果はできうる限り試合結果一覧表にして配布する。試合結果一覧表の配布が無理な場合は、担当ジャッジ（不在の場合は担当TO）が報告。基本的には、下記の通り対戦カード順に。

諸般の大会運営上の理由により、ミーティングの方法そのものをTD判断で変更する場合もある。

1. 何チーム対何チーム 2. 前半 何対何、後半 何対何

3. トータル 何対何 4. 何チームの勝ち

5. カード（勝チームのみ）、プログラムのページ数を指示、何色のカード

NO、選手の氏名、内容を報告(必要であれば審判員が補足説明)

⑯ ジャッジ席の用具は最終試合のTOが最終確認すること。（リストチェック）

⑰ SO戦時のフィールドへの立入り、ストロークの順番及び記録、GKとストローカー以外の23mエリアでの監督・選手の管理はTOが行うこと。（ジャッジはテーブル管理をする）

⑱ SO戦の規程及び方法については競技運営規程を参照のこと。

⑲ 試合前の練習終了の指示は、ジャッジ席のホーンにて知らせることを**原則**とする。

⑳ 記録用紙サイン時の監督、主将のクレームについてはTOが対応すること。

㉑ ジャッジ席には、担当役員（TO・ジャッジ・リザーブアンパイア）以外はテーブルに入ることはできない。（TD・UMは除く）

㉒ **TOは**、ハーフタイム及び試合終了後、選手・ベンチからの審判員に対するクレームを行わせてはいけない。サインさせることばかりに気をとられずに、フィールド上やその周辺で起こっていることに注意をはらうこと。もしこのようなことがあれば速やかにフィールドに入り回避すること。TOは記録用紙の管理を忘れず的確に指示、行動をとること。

（迅速な行動が事件を最小限に止めることを忘れないこと…**勇気ある行動を**）

最後に、競技役員は大会において一つのチームであるという認識を持ち、審判・ジャッジの分け隔てなく協力し、大会運営をスムーズに行い、大会の成功を目指さなければならない。また、審判やTOには権限や権威があり、必要な場面も多々あるが、必要以上に職権を濫用してはいけない。競技会においてのメインは選手であるということを忘れず、『縁の下力持ち』的存在としての認識を持ち、ホッケー競技の良いプレーを支える一員として頑張っていたいただきたい。そして、私たちがいなければゲームが成立しないということも忘れずに。

皆様の日々のご努力・ご協力に大変感謝いたしております。

(公社)日本ホッケー協会 技術委員会 競技部